

2022年4月27日(水)第四水曜祈祷会

ダニエル書11章1～31節

「不法の者の登場」

■北の国と南の国(11章1～16節) *ギリシャ時代に関する預言。地上の国々の栄枯盛衰の物語。

- ①御使いは「真理の書」に記されていることを告げる。「第四の者」は「クセルクセス王」のこと。
- ②「一人の勇敢な者」は「アレクサンダー大王」のこと。彼の死後、広大な領土は四つに分割される。
- ③「南の王」は「プトレマイオス朝」、「北の王」は「セレウコス朝」のこと。婚姻関係で同盟を結ぶ。
- ④しばらくの間の平和の後、北と南は再び戦争を続けていく。アンティオコスⅢ世は殺害される。

■不法の者の登場(11:20～45)

1. アンティオコスⅣ世の侵攻(20～28節)

- ①「一人の卑劣な者」…アンティオコスⅣ世が卑劣な手段、巧みなことばを使って王位に就く。
- ②「肥沃な地域に侵入し」…アンティオコスⅣ世はエジプトに出兵し、神を冒瀆する行為を行う。
- ③「南の王も…軍勢を率いて」…北と南の激しい戦いが続く。裏切者によってエジプト軍が敗北。
- ④「二人の王は」…和睦のために食卓に着くが決裂。アンティオコスⅣ世は財宝を携えて帰国。

2. 敬虔なユダヤ人の迫害(29～35節)

- ①「再び南へ攻めて行くが」…アンティオコスⅣ世は第二次エジプト遠征を行うが失敗に終わる。
- ②「聖なる契約にいぎり立って」…アンティオコスⅣ世は腹いせに神の民を迫害し、神殿を汚した。
- ③「自分の神を知る人たち」…誘惑を受けても、神に信頼する人たちは堅く立って信仰を貫いた。
- ④「一時は剣にかかり」…神の民は激しい患難の中に置かれるが、神の定めの際は必ず訪れる。

3. 終わりの時の不法の者(36～45節) *ここからは終末に関する預言と思われる

- ①「この王」…アンティオコスⅣ世を型として、終末の時に現われる不法の者(Ⅱテサロニケ2:6)。
- ②「自分を大いなるものとする」…どんな神よりも自分こそが真の世界統治者であると主張する。
- ③「終わりの時」…不法の者はエジプトを始め多くの国々を征服するが、東と北からの敵に怯える。
- ④「彼は終わりを迎える」…神を無視した権力は決してこの地に真の平和をもたらすことはできない。

◎まとめ:「不法の者の登場」について *マルコ13:1～13

- ①今日、神の預言はどのように成就していますか。
- ②困難の中でも神の御心に立つ人々を、神はどのように見ておられますか。
- ③神を無視したこの世の王が、なぜこの世に真の平和をもたらすことができないのですか。
- ④終わりの時、神は信じる者たちにどんなしるしを見せてくださいますか。

「また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。」

(マルコの福音書13:13)